
ねこぬこっ！

羽崎 暮斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこぬこっ！

【Nコード】

N8992Z

【作者名】

羽崎 暮斗

【あらすじ】

ある雨の日、俺は一匹の黒い子猫を拾いました。

妹が『クロ』と名付けたその猫は、なぜか妹ではなく俺に懐いて、拾った日の夜、一緒に寝ました。

朝起きたら、横に居たのは、一言で言うなれば『美少女』でした。しかも全裸の。

甲斐性の無い俺が、全力で叫ぶ所からこのお話は始まります。

これは、一匹の（一人？）の黒猫と、『Mr・平均値』な主人公のほのぼの系ラブコメとなります。

派手な戦闘や、魔法や特殊能力なんてものは、一切とほいいませんが、ほほ出ません。

第一章『ねこ？ネコ？猫……だったよね？』（1）

—— 状況を整理しよう。

俺は篠原しのはら 優斗ゆうと。16歳高校生。

背丈も顔もスポーツも勉強も財力も権力も……何もかもが平均値。『順位』というものが存在する物事においては、俺より上ならば、「まあまあまあ、平均よりは上か」なんて言われる始末。

顔は……高校に入ってから若干目付きが悪くなってきた……ような気がする。

え？自己紹介を兼ねた自己確認は要らない？

もうちょっと待ってくれ。こんな事から確認したくなる状況なんだ。

なんなら、自分はどの様な行程を経て生まれたのかすら確認したい。

……いや、やめておく。『両親の×××』は、人生のトラウマ第2位だ。むやみに掘り返すべきでは無い。

今は10月。季節は秋。

焼かれる様な暑さはすっかり無くなり、風も心地よい。なんなら肌寒いくらいだ。

俺にとっては、暑くも寒くもないから、最高の季節である。

確か昨日は雨が降っていた。

朝から、この時期に珍しく土砂降りで、学校をサボろうか……4
回考えた。

結局一日中降っていて、帰りも、このまま学校に泊まってしまおうか……6回考えた。

当然、泊まるわけにいかないの、部活が休みになった友人、高杉と帰路につき、自宅近くの商店街入り口で別れた。

唐突だが、ウチには両親が居ない。

両方とも、外資系コンサルタント企業で働いていて、父親の方がそこそこの地位にいるらしい。詳しくは知らない。

母親はその秘書。

ざっくり言えば、父親が遠くに異動になり、母親も秘書としてついて行くことに『した』らしい。

そこそこの地位に居るなら、異動なんてあるのか？秘書の融通がきくのか？これが権力か？

……大人の世界はわからない。

んで、こうなると当然、『引越し』という難関が立ちはだかる。俺と『妹』はこれを全力で拒否。確固たる意思に基づき拒否。

両親にとっては予想通りの反応だったらしく、4年程前に建てた、比較的新しい我が家を空けてしまうのも悩ましいところだった様だ。

結論 『優斗が居れば大丈夫よね？ 2人だけで行っちゃいま

しょ、あ？な？た？』

篠原優斗、2歳年下の妹の美咲と共に、一戸建ての我が家に取り残された……中3の冬。

話戻って。

そんな我が家の本日の夕飯を考えながら、商店街で買い物をした。金は困らない程度に仕送りをもらっている。

途中、八百屋のおっちゃんにトマト（妹大っ嫌い）を3つ貰った。魚屋のおっちゃんにも、アジを一匹貰った。

社交性はある方だと自負している。

—— 自宅への帰り道、もう目と鼻の先という所で、一匹の真っ黒な子猫に出会った。

電柱の下に、ダンボールに入れられ、放置されていた。ご丁寧に、雨に濡れない様、傘まで置いて。

それでも猫は濡れていて、今夜は冷えるだろうから、危ないんじゃないかと思つて連れて帰る事にしたんだ。

両親が居ないし、借家でもないの、『返して来なさい』なんて言われる心配はなかったから。

家に帰るなり、俺が左手に抱えている猫を見た妹が発狂。

嫌いな訳では無い。むしろ真逆。

腰まであるツインテールを、左右にブルンブルン揺らし、大きな瞳をキラキラ：いや、ギラギラさせて大はしゃぎ。

あまりに騒ぐので、猫が驚いてしがみついてくる。

大っ嫌いなトマトを口にねじ込んで黙らせた。

濡れていたので、風呂に入れてやった。

猫は風呂なんてとてつもなく嫌がるものだと思つていたが、まったく嫌がらなかったな。もうすでに濡れていたからか？

その後、夕飯作りに取りかかった。

メニューは、ハンバーグとサラダとアジの刺身。

バランス良すぎてにやけた。

夕飯を作る間、普段は自分の部屋で、某動画サイトに入り浸っている妹は、猫と戯れていた。

ティッシュを細くちぎって、ひらひらさせてたな…。猫ってあの程度でいいのか？

感極まった妹が命名。子猫の名前は『クロ』。黒いからクロ。

シンプルすぎるが、悪くはないだろう。

19時を回って、夕飯にした。

クロには、牛乳と、アジを5切れ程。

子猫の割にはよく食べたな。やっぱり魚に対するがっつきはすごかった。

22時くらいまでテレビを見て、自分の部屋に戻る事に。

部屋に行こうとすると、それまで妹と戯れていたクロが、走り寄って来た。

てつきり妹に懐いたもんだと思っていたが、悪い気はしなかった
ので、自分の部屋に連れて行った。

『お兄ちゃんズルいズルいズルい……』とずっと言われていたが、
知ったこっちゃない。

部屋で課題を片付け、インターネットでネットサーフィン。

この間ずっと、俺の左手でクロがじゃれていた。

ネットサーフィンをやめ、本棚から読みかけのラノベを取り出す。
ベッドに転がり、眠たくなるまで読書。これがいつもの生活サイ

クル。

眠たくなったので、本をたたみ、机に放る。

電気を消し、布団に包まると、クロが枕元に来た。

寝返りで踏んでしまわないか心配したが、頭の横だったし、特に
気にしない事にした。

そして眠りについた。

———ここまでではない。おかしい所はない。

『変わった事あった？』と、母親に聞かれたら、『猫を拾ったよ

ママン』と答えるくらいだ。

言っておくが、俺は『ママ』とは呼ばない。『おふくろ』だ。

——ではなぜ……。

——なぜ……俺の横に全裸の少女が居る？

長い黒髪。綺麗な顔。幼くは感じない。美咲と同じくらいだろうか。

美咲を『かわいい系』とするなら、この子は『美人系』といった印象を受ける。

美咲と同じくらい、と言う割には、発達のいい身体のライン。

……イカン、これは朝から刺激が強い。

——そして、猫耳と尻尾。

……わからない。特殊メイクか？

わからない。クロはどこへ？

わからない。なぜ全裸？

俺なんかしちゃった？

そんなバカな。俺にそんな度胸はない！
酔った勢い？酒なんて飲めねえよバツカ！！

ダメだ。散々振り返ったがわからん。

ラノベにはこんなシーンいくらでもあった。

『俺だったらやっちゃうね』とかなんとか、思春期男子らしい、調子に乗った考えについて、作者様に謝罪すべきだろうか。

…。
何もわからない。頭の中で、メリーさんがゴージャンドした俺は…

「……………ツギやああああああああああああああああああ！！」

全裸の美少女を前に、『叫ぶ』しか出来なかった俺を、笑いたくば笑えばいいさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8992z/>

ねこぬこっ！

2011年12月28日06時56分発行